## ₩世 別ぱん 解

第 四一〇号

令和 四 年 四

西法寺

## 念仏もうさるべし

遠く宿 縁を慶べ 四

耳みみ

どうぞお身体お大切にお大切になさっていただきたいと存じます。 らきの中「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏ご相続のことと思います。 四 月になりました。 世情は全く落ちつきませんが、 皆さまにはご本願のおはた

親ん

言葉をご一緒にお聞かせをいただいておるのであります。 さて今年になってから、 「遠慶宿縁」遠く宿縁を慶べという親鸞聖人のおぉんきょうしゅくえん とお しゅくえん よろこ しんらんしょうじん

まが私に届けてくださっている"なもあみだぶつ"というご本願のお念仏に遇え 親鸞聖人が阿弥陀さまのご本願のお心、そしてそのお徳の全てを込めて阿弥陀さ」ないでは、 ぁ ゅ だ まる まん まる こしゃ たお。慶びをおっしゃったお言葉であります。 「たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。」浄土真宗のご開山

## ご本願ということ

と願いを発してくださったのがご本願であります。 私 をご覧くださった時"こうなればよいのに"というようになっていないからで\*\*\* ご本願は阿弥陀さまが発してくださったのであります。それは阿弥陀さまが、 あみだ あみだ 私がそのようになっていないから阿弥陀さまが"こうなってくれよ"

阿弥陀さまのご本願は私のために発されたといただくのであります。 まき

いることですよ」とお教えをくださったのは、 せていただいているということは「阿弥陀さまのご本願が今、 がお念仏出来ているということ、"なもあみだぶつ"とお念仏申す身になら、 ねんぶっで き 梯實圓和上でした。 私の上で花開いて

> 生まれることが出来ると安心して、それまでの日暮らしはお念仏もうしながら生き てきてくれよ〉というご本願がそのまま、 私の 力 となって 私 の口から出、できてくれよ〉というご本願がそのまま、 私の 力 となって 私 の口から出、 なもあみだぶつ"は阿弥陀さまの〈お前さん、 必ず支えてるから 私 の浄土に く法則なり に、心に届いてくださっている阿弥陀さまのおはたらきなのであります。 しらざるに広大の利益を得るなり。自然にさまざまのさとりをすなはちひら 如来の本願を信じて一念するに、 かならずもとめざるに無上の功徳を得しめ、 私たし の

さるのである。 ご本山から出 版されている『現代語訳版』では、 ほんぎん しゅうばん げんだいじゃくばん 鸞聖人の『一念多念文意』というお聖 教に説かれているお言葉であります。いられいからなったねんたねんもんい 如来の本願を信じてひとたび念仏すれば、求めなくても必ずこのにはいい、 ほくがく しく 功徳を得させてくださり、知らなくても限りなく大きな利益を得させてくだくと、『『『『『『『『』』』。 つまり、自然にさまざまなさとりをただちに開く法則だとい

教えくださるのであります。 浄土へ生まれさせていただける」と安心して、阿弥陀さまの願いの通りに「なんま」はいます。 阿弥陀さまのおはたらきによってそうあらしめてくださるおはたらきである。 く、阿弥陀さまのご本願のおはたらきの自ずから然らしめてくださっている。 無上の功徳に包まれる。 んだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏申しながら生きる。そういう信心の行者 きてくれよ〉というご本願のお言葉を素直に聞き受けて、
ほんがく ことば すなお き う れることが出来ると思いとって、それまでの日暮らしはお念仏もうしながら生きていることが出来ると思いとって、それまでの日暮らしはお念仏もうしながら生きて うことである。 となっています。阿弥陀さまの〈お前さん、 阿弥陀さまのお徳の全てがそのまま 私 に届き 私 を包み、ぁ み だ しょく まく まく 必ず支えてるからな お言葉の通りに「お 私たし の浄土に生 とお

のであります。 さっているのであります。永い、長いお育てが、 身にならせていただいておるのであります。 い時からかかり続けてくださっていて、 阿弥陀さまのご本願のおはたらきが、 遠く宿 縁を慶べであります。 今。ま 私 が阿弥陀さまのことなどなにも知らな こうしてお念仏をお聞かせいただく 阿弥陀さまのお育てがあり続けてくだぁみだ 願が いがあり続けてくださっておる 掌